

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
認知症の理解 Understanding Dementia		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	( )	介護福祉士養成課程の学生は履修不可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
和田晴美	福祉棟2F	月・火・水・木の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
<p>現在日本で認知症のある患者数は、400万人を超えているといわれている。今後もさらに増加することが予測されており、認知症への対応は緊急の課題である。本講義では、認知症に関する医学的知識や、認知症に伴うこころとからだの変化が及ぼす影響について学び、認知症に対する基礎的知識を習得する。さらに、認知症のある方に接するときの留意点や家族のストレスとその支援について学習することで、認知症がある人とその家族への支援に対する理解を深める。</p>				
授業の目標				
<p>①脳解剖・生理と老化のしくみについて説明できるようにする。  ②認知症を引き起こす疾患を列挙できるようにする。  ③認知症がある人の中核症状と、行動・精神症状の違いを説明できるようにする。  ④認知症がある人を介護する家族のストレスの原因や対処方法について説明できるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>講義・演習を通して、認知症を理解する。また、認知症に関連するトピックスを新聞や雑誌などから選び、その記事の概要と感想を発表することを課題とし、発表の機会をもうける。認知症に対する社会の動きに関心を持っていることが必要である。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>認知症の原因となる代表的な疾患や特徴的な症状を学習し、認知症がある人と家族に対して、尊厳の保持を考慮しながら共感的に接することができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって授業概要、授業の目標と学習の成果、評価方法等の説明） 認知症とは① 認知症を疑う症状 診断			
第2回目	認知症とは② 認知症の原因 記憶障害 類似疾患			
第3回目	認知症とは③ アルツハイマー型認知症 脳血管性認知症			
第4回目	認知症とは④ レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 その他の認知症 若年性認知症			
第5回目	認知症の医療① 診療の進め方 検査 認知症の評価（小テスト①）			
第6回目	認知症の医療② 治療			

第7回目	認知症の人の世界と介護① 心的世界 介護の基本 中核症状	
第8回目	認知症の人の世界と介護② 利用者から考える行動・精神症状（BPSD） 視聴覚教材「毎日がアルツハイマー」の視聴 <レポート課題 提出は第9回>	
第9回目	認知症の人の世界と介護③ 行動・精神症状（BPSD）の理解	
第10回目	認知症の人の世界と介護④ 行動・精神症状（BPSD）の理解 （小テスト②）	
第11回目	認知症の人と家族への支援① 家族のストレス、家族へのレスパイトケア 視聴覚教材「ハルさんの物語」の視聴 【グループディスカッション・発表】	
第12回目	認知症の人と家族への支援② 家族介護者の心理 対応	
第13回目	認知症を取り巻く社会① 増える認知症 在宅介護の現状 認知症の人が利用できるサービス	
第14回目	認知症を取り巻く社会② 認知症の人の人権尊重 虐待の防止 （小テスト③）	
第15回目	認知症を取り巻く社会③ 権利擁護 地域で支える	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。ディスカッションでは他者の意見を傾聴し、自ら積極的に発言して学びを深められること。
レポート	10%	「毎日がアルツハイマー」の視聴による感想文で評価する。評価基準Sは、認知症がある人と家族を共感的に捉え、自身の介護に振り替えて考察すること。期限厳守して提出すること。
調査報告書		
小テスト	60%	第5. 10. 14回目に小テストを行う。穴埋め問題（語彙群あり）、文章を読み正誤を判断する問題等で知識の確認をする。
試験		
発表内容（態度含む）	10%	「認知症に関するトピックス」の発表で評価をする。評価基準Sは、課題を十分に理解したうえで、分かりやすく工夫した発表であり、他者を惹きつけるようなものであること。
その他		
教科書と参考図書		
三宅貴夫 認知症ぜんぶ図解 メディカ出版		
履修上の留意点・ルール		
授業には積極的に参加し、学びを共有してほしい。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席した場合は、必ずその部分の学習を補い、届出等は速やかに提出すること。		